

開会挨拶

代表幹事 小原 幸司

今晚は、去年の同期会の時にお約束した通り 6 月の第 4 土曜日に同期会を開くことができました。

3 月 11 日突然起きた大地震、大津波は 100 年に一度とも、1000 年に一度とも言われるものでした。東日本大震災の被害者、死者 15, 489 人 行方不明 7, 385 人

県内の被害者数、死者 4, 557 人 行方不明者 2, 371 人 (24 日現在) です。

同期の消息については、石桜同窓会の小枝指会長からの依頼もあり、幹事の連中で被害状況を調べていましたら古館君の家族の死亡が判りました。ショックでした。年老いたお母さんと一緒にだったので逃げれなかったのでしょうか。この同期会に参加して「津波は怖いもんだネシー」とその辺から聞こえてくるような気がしてなりません。

大震災後、岩手日報の風土計を読むようになりました。なかなか味のある文章があります。4 月 6 日の風土計の一部を読んでみます。

水沢出身の後藤新平が「大風呂敷」とあだ名されたのは、東京市長時代に立案した東京改造 8 億円計画に由来する。当時の日本の年間予算のほぼ半額だ。市長を務めたのは 1923 (大正 12) 年 4 月までの 2 年余。同年 9 月 1 日に関東大震災は起きた。後藤は内務相兼帝都復興院総裁となり、復興計画を立案。削りに削られ、実行された事業費の総額は、くしくも 8 億円ほどだったという。

実は震災発生時、日本の首相は空席だった。現職首相が急逝したためだ。後継をめぐる政局は震災で「休戦」。急ぎ組閣された山本権兵衛内閣の下、後藤が市長時代に広げた「大風呂敷」は首都復興に極めて有用だったに違いない。

政治は、先人に恥じない復興を目指す使命と責任がある。たとえ世相は違っても「大風呂敷」を待望する庶民感情は変わらない。

財源難は百も承知。それでもなお、地域が突き進むべき近未来への夢や希望を今ほど政治に語ってほしい時もない。・・・と書かれています。

話は変わりますが、今年の石桜同窓会の総会は 10 月 21 日 (金) の予定です。我々新 11 回生、新 21 回生を中心となって懇親会を行います。例年ですと 70 ~ 80 名の参加ですが、今年は 120 名程の参加を希望しております。どうかご協力をお願いします。

今晚は学生時代を懐かしんで楽しく過ごしましょう・・・